

会津朝日岳（山スキー）/ いわなの里（跡地）～会津朝日岳

日程 : 2017.05.01

メンバー : 上小牧、小濱(記録)

天気 : 雨時々曇り

記録 : いわなの里(6:10)→叶の高手(10:00)→避難小屋(10:50)→1450 のコル(11:30)→会津朝日岳(12:15)→避難小屋(13:00)→叶の高手(13:50)→いわなの里(15:30)

GW は奥深い山に行きたい。最初に考えたのは会津朝日岳～会津駒ヶ岳の南会津全山縦走だったが、日程が合わず残念。ならばせめて、南会津の中でも奥地で、そして厳しそうな山容の朝日岳に行ってみよう。ついでに檜俣沢と北壁の様子も偵察できればいいな♪パートナーはマイナー登山の相棒にして人生の大師匠、上小牧さんだ。

4/30

前泊でいわなの里跡地に入る。2011 年の豪雨で崩壊した白沢の林道は、すっかり復旧していて、私の 2WD でも何ら問題なく入ることが出来た。ワインを呑み呑み語り合うのは、つい数時間前に報告された落合さん＆荒井さんのご結婚(祝)について！本当におめでとうございます。御二人の祝福をしながら夜更かしをした。

5/1

のっけから雨。まあ分かっていたので防水は完璧だ。

すこし歩くと赤倉沢を渡る道に出るはずなのだが、橋が無い。開山前なので橋げたを外してあるのかもしれない。まあたいたいした水量ではないのでサッサと渡ってしまおう。小濱がブーツを脱ごうとした矢先に、上小牧さんはスキーブーツのままでバチャバチャ渡渉していく。。。まさか。どう覗眞目に見ても脛(すね)まであるんですけど。だが、こんな所で上小牧さんに遅れを取る訳にはいかない。謎の対抗心で小濱も続く。当然、二人とも靴の中がチャプチャプだ。いやー、兼用靴にチャプチャプは不快だぜ。ネオプレーンソックスを履いてくれば良かった。

登山道の雪は所々途切れているのでスキーを脱いだり履いたり。右岸からのデブリが沢に流れ込んでいる。白沢の右岸は急で高い岩壁が続いている。秋頃には隣の檜俣沢から会津朝日に登りたいと思っているが、これは左岸巻きが基本になりそうだ。



赤倉沢の渡渉



デブリの上を渡る

標高 850 くらいから左岸の枝尾根にのる。この尾根の傾斜が意外と厳しくてシートラ。尾根上には何日か前のワカンの踏み跡がある。こんな奥地まで来る物好きが自分達だけないことを嬉しく思う反面、先を行かれたような感じがして悔しくも思う。

一時間ほどの登りで稜線に出る。全身ビチョ濡れなので風を警戒していたが、心地よい春風が吹いているだけで一安心だ。稜線上は所々雪が割れていて、登山道と雪の上を行ったり来たり。場所によっては雪面に上がる為に 2m くらいの雪壁を登った。叶の高手の少し先まで板を担いだまま歩き、ここからスキーで 1382 の小ピークをトラバース。避難小屋から山頂直下 1450 のコルまで順調に上がる。避難小屋から先は先行者のトレースが無かった。一泊して引き返したのかな。



会津朝日岳への稜線



雪壁を越えたりも

コルから山頂直下の斜面を見ると、所々にシュルントが開いている。しかも上部はガスに覆われて真っ白。これはちょっと危ないねって事で上小牧さんからコンテの提案。滑つて降りられる自信が無いのでスキーもデボ。これがナイス判断だった。さすがっす。

斜面の下部はサクサクと歩けたが、ガスで見えなかった上部は状況がガラリと変わる。傾斜は半ば雪壁。視界は 5M くらい? シュルントの影を慎重に見極めて登る。実は下で「シールでも登れるんじゃね?」とか思った自分は全くの阿呆だった。

雪面を詰め上げた後、会津朝日岳のピークへ稜線を少し歩く。ひたすら雨とガスで快適とは程遠い山行だが、ここに来てこみ上げてくる充実感。

「上小牧さん、俺ちょっと感動」

「俺はまだ怖いです」

そうですね、山行は車に着くまでが山行ですね。



手前に避難小屋、奥の斜面が北壁?



会津朝日岳山頂 充実のピーク!

下山は同ルート下降。計画では小幽沢や赤倉沢を滑る予定だったが、雪の状態的にも時間的にも厳しかった。あと一ヶ月も早ければ良い滑りが期待できるかもしれない。

会津朝日岳はやはり良い山だった。奥深さと程よい険しさが、私達には丁度いいバランスで迎えてくれた。次は沢登りだろうか、是非また来てみたい。